

ぶどうの樹

2022.11

NO. 31



写真：外語祭

INDEX

特集1：“外語祭”3年ぶりに開催!!

特集2：プロジェクト科目活動報告会を行いました withコロナ交流活動再開!

特集3：ライブラリー便り 忘れ得ぬ人々

7 チャペル通信

8 9 大学情報

10 同窓会だより・保護者会だより

11 寄付事業のお礼と報告

“外語祭” 3年ぶりに開催!!

10月29日(土)・30日(日)の2日間、「外語祭」を開催しました!!
 3年ぶり、また第70回記念の学園祭でした。主催の学友会執行委員会メンバーの多くは外語祭未経験でしたが、懸命に企画・準備を行い、多くの方に来場いただきました。感染症対策を講じ、例年に比べ規模を縮小しての開催となりましたが、2日間天気にも恵まれ、盛りだくさんのイベントやキッチンカーによる飲食物の提供などもありました♪



【学内イベント】

ハンドメイド雑貨や本、コーヒー豆などの販売を行うフリーマーケット、eスポーツ大会(マリオカート)や、キッズスペース、フォトスポットなどを用意♪eスポーツ大会では、優勝賞品の“Nintendo Switch”獲得の為に、子どもから大人まで白熱した戦いが見られました!!



【ステージイベント】

クイズ大会やファッションコンテスト、ダンスサークル・軽音楽部などによるダンスやバンド演奏、そして今年の日玉でもあるパンクブーブーやジェラードンなどによるお笑いライブがありました♪来場者の皆さんの笑顔がたくさん見られた時間でした!!



外語祭実行委員長を務めた現代英語学科2年の後藤優さんは、「地域の方々や協力企業、出演者、来場者、参加してくれた外大生の支えのおかげで3年ぶりに開催することができました。今年はさまざまな制限がある中での開催だったので、来年は模擬店やステージ企画などのクオリティを上げていきたい」「来年もがんばりま

すので、ご協力をよろしくお願いいたします!!」と、力強く、そして早くも来年の成功に向けて意気込んでいました。

参加していたお子さんからも「佐世保バーガーがとってもおいしかった! スーパーボールすくいも楽しかったし、また来たいです!」と、嬉しい言葉も頂きました!!



(文責：学生支援課 濱田利奈)

プロジェクト科目活動報告会を行いました

春学期のプロジェクト活動でもたくさんの成果が上がっています

2022年8月5日（金）に行われたプロジェクト科目報告会では4人の外部審査員をお招きして、春学期に活動した全12グループの活動成果発表が行われました。

今回は3グループの活動を取り上げて、学生たちによる取り組みについて紹介します。

ラジオ番組をプロデュース

学生たちが長崎市民エフエム放送を放送局として不定期で「外大ラジオ」を収録・配信しています。春学期は合計で3回の収録を実施、7月15日（金）放送分では初めての生放送に臨みました。

主な番組コンテンツとしては、留学生・留学経験者へのインタビューを通じた現地の生活や文化に関する留学情報の紹介や、身近な大学生活に関するお悩み相談コーナーも好評です。

このほか「フェアトレードでSDGsを推進しよう！！」プロジェクトの活動紹介も行うなど、他グループとの連携も行いながら、外大生をはじめラジオの魅力を広く内外に発信しています。



7月15日に行った生放送の収録風景

地域社会多言語化プロジェクト

大学での語学学習の成果を生かして、街中や大学構内にあふれる掲示板やパンフレットを多言語化する取り組みを行っています。3月には長崎市観光政策課との協働により、長崎市内に設置されているさるく掲示板3枚の翻訳修正を行った実績もあります。

春学期は事前の留学生を対象としたアンケート調査の結果を踏まえて、留学生が日常生活や観光をする上で最も困難を覚えている、バスの乗り方（時刻表や路線図の読み方など）に関する情報を英語・中国語・韓国語に多言語化したパンフレットを作成しました。作成後の検証では8割以上の留学生から高い評価を受けるとともに、報告会では外部審査員の方から産学官連携に向けた建設的な意見をいただくなど、充実した活動ぶりが光っていました。



学生たちが多言語化に携わったさるく掲示板



留学生へのインタビューの様子

GAIDAIライフブックプロジェクト

外大生自身が新生や留学生を対象として、学生生活を充実させるための極意を伝えるGAIDAIライフブックを学期ごとに作成しています。

第3号となる今号では「新生がコロナ禍でも学生生活をより充実させるためのライフブックを作成すること」を目標として、新コーナーを加えて内容をボリュームアップさせました。新生向けのメールの書き方や学内イベント及び長崎市内で行われる観光イベントのお知らせ、おすすめの図書紹介や教員へのインタビューなど、新生が大学生活を楽しんで過ごすための貴重な情報が目白押しです。



GAIDAIライフブック「留学生インタビュー」

秋学期からは2グループの新規プロジェクトが立ち上がることとなります。今後ともプロジェクト科目による学生たちの熱心な活動から目が離せません。

withコロナ 交流活動再開!

国際的な人の往来が再開し、本学キャンパスにもようやく留学生の姿が増え、コロナ前の外大の日常が戻ってきました。それに伴い、学内外での交流会参加の機会も増え、小中学校の児童・生徒との交流も活発に行われるようになりました。

その中から、7月に開催された長崎県立佐世保北中学校の本学訪問、10月の時津町子ども育成会連絡協議会主催「ジュニアリーダー研修」、11月の時津町立鳴北中学校での交流会、そしてこの7月から始まった「子ども食堂もぐら」へのボランティア参加をご紹介します。

長崎県立佐世保北中学校3年生 本学訪問

7月14日（木）長崎県立佐世保北中学校より3年生35名が本学を訪問しました。

同校からの本学訪問は昨年に引き続き2回目で、今年は「多くの外国語に触れる」をテーマに英語、ドイツ語、韓国語の体験授業と授業見学、ライブラリー見学を行ないました。留学生の日本語の授業見学では留学生からのインタビューに応える一幕も。中学生が初めて足を踏み入れた大学の印象は「固い」から「楽しい」に変わったようです。



小学生ジュニアリーダー研修 ボランティア参加

10月22日（土）時津町子ども育成会連絡協議会主催の小学生ジュニアリーダー研修が本学キャンパスで開催され、本学より留学生を含む14名の学生が参加しました。

時津町内の小学校4年生から6年生30人と英語によるゲームやアクティビティ、スポーツに参加し交流を行ないました。日頃、小学生と接する機会のない学生も多く、普段使っている英語を小学生向けの英語に駆使しながら、子どもたちの元気に負けないほどの笑顔で楽しんでいました。

次回は12月7日（水）に留学生を含む36名の学生が時津小学校を訪問し、交流を行ないます。子どもたちとの再会が楽しみです。



時津町立鳴北中学校との交流会



11月1日（火）留学生11名が鳴北中学校を訪問し、同校2年生との交流活動に参加しました。事前に鳴北中学校の先生方がビデオ撮影に来てくださり中学生に向けた留学生からのメッセージを届けていたこともあって、中学生は留学生との交流会を楽しみにしてくれていたようです。

最初は緊張した面持ちだった留学生、中学生も、時間と共にみんな楽しそうに会話が弾み、最後はみんな「Good Time」を唄い、名残惜しそうに交流会を終えました。

鳴北中学校の皆さん、お世話になりました。

こども食堂もぐら ボランティア参加

大学からほど近い日本ナザレン教団長崎教会（長崎市葉山）で、毎月第2土曜日に「こども食堂」が開催されており、こちらの教会の門田純牧師のご紹介で、この7月から本学学生が子ども食堂の学生ボランティアとして参加させていただくことになりました。門田牧師には、本学のチャペルアワーでもお世話になっています。

10月の開催日には、中国やフランスからの留学生も参加して、国際色豊かな子ども食堂になったようです。この子ども食堂には、本学からはボランティアだけでなく、秋学期からGaidaiプロジェクトでも関わらせていただいています。こども食堂の学生ボランティアは、引き続き学内で募集します。みんなで作ったお昼ご飯を食べながら、一緒に楽しい時間を過ごしませんか？



（文責：社会連携センター 今村ひろみ）

忘れ得ぬ人々

2021年2月に田村美代子先生が旅立たれました。短大時代から長きに亘り本学のスペイン語教育を担われた、名誉教授です。本誌を読んでくださっている卒業生の皆様の中にはご記憶にある方が多いのではないのでしょうか。告別式では、若き日の田村先生のお写真も拝見でき、現在の上皇后の皇太子妃時代に随行通訳をされた際の写真もありました。明るい眼の生き生きとした初々しい田村先生がそこに居られて、長い年月をスペイン語とスペイン語圏の世界と共に生きてこられた方なのだ、としみじみさせられました。各地から駆けつけた、田村先生の教え子である、卒業生の姿もありました。

卒業生のことを懐かしむとき、個性きらめく学生たちを思い出します。

大学の一期生は特に、何人もの顔が浮かびます。大学の歴史の第一歩を自分たちがつくるのだ、という自負と意欲に満ちていた学生たちです。個々のエピソードを書くとながら紙幅が尽きてしまうので、残念ですがここでは、一期生は皆忘れられないと言うに留めておきます。

その後も、記憶に残る学生は続きました。もちろん、その前の短大時代にも。

在学中のある日偶然に書店で手にした本をきっかけに、猛勉強の末アメリカの大学、大学院へと進み、理系の研究者になった卒業生もいました。それまで手にしたことのない分野の本をめくってみたことが自分の人生を方向づけた、という興味深い経験談は、帰国時に本学に立ち寄ってくれた際に聞いた話です。

2年間で英語の多読図書を700冊読んだ、という学生もいました。継続は力になったようです。

好きな映画を繰り返し見ては聞き取った英語のセリフをノートに書き取り、独自に英語で映画のシナリオを作ってみた、という学生もいました。大学の資料や設備を使って学んでくれたエネルギーには驚かされ、また、喜ばれます。

留学帰国後に、大学で最初の国際交流サークルを立ち上げた学生たちは、それぞれの角度から海外と関わる仕事に就いたようです。また、航空業界に旅行業界、教員、警察、消防等々、憧れの職業に就く希望を叶えた学生たちが、在学中に地道な努力を続けていた姿も知っています。いずれも、初志を忘れない姿には感心させられました。

三カ国語面接を経て外資系企業に就職した学生は、世界中の過半数の人とコミュニケーションをとることができる語学力を備えて、今はどの国で仕事をしているのでしょうか。

本学に入学するまでの自分の来し方について4時間語った後で「久しぶりに人と話したら疲れた」と言った学生は、教員になりました。生徒の背景を慮ることのできる先生になっただろう、と頼もしく思います。

小学校は不登校で『ドラえもん』のコミックで文字を覚えたと言っていた学生は、本学で外国語を修得し留学も果たしました。中学以降どれほど頑張ってきたかを想像すると、応援せずにはいられません。

幼少期から自分の誕生日を祝ってもらったことがない、と話してくれた学生の誕生日が来る度に、今日訪ねてくれたらお祝いをしよう、と毎夏心待ちにしています。

修行中に洋菓子の試作品を持って来てくれていた卒業生は、遂に自分の洋菓子店を開きました。

通信機器に非常に詳しく、常に複数台の機器を使いこなしていた学生は、広く一般に普及する何年も前にスマートフォンについてのとても分かり易い解説をしてくださいました。今も多忙にしていることでしょう。

特徴を捉えてデフォルメしているのに人を傷つける描き方にならない、温かいタッチの似顔絵が得意だった学生から描いてもらった絵は、今も大事にとってあります。

独創的な抽象画をスケッチブックに次々と描き続けていた学生は、今も描いているのでしょうか。

クリスマスカードや外語祭のTシャツ、4階のスタンドグラス等、いろいろな場面でデザインセンスを発揮してくれた、複数の卒業生のことも忘れられません。

学生ラウンジで三線を弾いていた学生のことも、昼休みに学生食堂でピアノを演奏していた学生とそこに集い歌っていた多国籍の学生たちの光景も、ヴァイオリンを弾く学生のことも、フラメンコやベリーダンスやパントマイムを見事に披露してくれた学生たちのことも、忘れられません。

冬の北海道を自転車で回ったという学生も、ヒッチハイクと野宿で東欧を旅したという強者もいました。シベリア鉄道でヨーロッパ入りし、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路を歩くと話してくれた卒業生は、無事に歩けたのでしょうか。

思いもよらない難病発症により、卒業の数カ月前に亡くなった学生が好んでいた色だというハナミズキの花木を見る度に、よく似合っていた個性的な服にも使われていた色だと回想します。

卒業生同士、或いは留学生と結婚した何組ものカップルもいます。家族揃って訪ねてくれる卒業生が、子育てに悩みながらも奮闘して親になっていく姿は、忘れ難いものになります。

海外に暮らしている卒業生のことも折に触れて思い起こします。ヨーロッパの国々にも、南北アメリカにも、中国や韓国にも、オセアニアにも。言語が壁にならなければ、こんなにも自由に地球上のどこでも生きていけるのだということを、身をもって教えてくれる人々です。



ライブラリーの書架には、出版文化が大事されてきたのだらうと思わせる装丁の美しいシリーズ等、ある程度のボリュームのスペイン語の図書があります。スペイン語図書の書架の前に佇むと、田村先生を偲ぶことや、長崎と縁のあるスペイン世界を感じることができるように思えます。時折、最後にお目に掛かった際に（それが最後になるとは想像もしていませんでしたが）、自分に問い掛けられた言葉を思い返します。

(マルチメディアライブラリー事務室 別所佐和子)

あの人にインタビュー！

なか お え み
中尾恵美さん（日本基督教団 長崎銀屋町教会員）



長崎外国語大学のチャペルアワーで、2022年秋学期からオルガンの奏楽を務めてくださっている中尾恵美さんにお話をお伺いしました。

母が自宅でピアノ教室をしていたので、ピアノや音楽が身近にある環境で育ちました。それで物心ついた時からピアノを弾くようになりました。母の手ほどきで始めたピアノですが、自分も音楽の道に進むことを志し、高校は音楽コースに進学しました。

進学した中学・高校はキリスト教主義の学校で、毎朝の礼拝で先生が弾くオルガンの音色を聞きながら学校生活を送りました。そして短期大学の音楽科ではピアノを専攻しました。家にあったエレクトーン（電子オルガン）も弾いていたおかげで、オルガンの演奏もします。

クリスチャンホームに生まれ、幼い頃から教会に通うようになりました。そして高校時代から教会学校の礼拝で奏楽を受け持つようになりました。社会人になってからも、教会の礼拝で奏楽をさせて頂いています。今は合唱団の伴奏なども務めさせて頂いています。

かつては若い人たちも教会にたくさん来ていましたが、今は少なくなり寂しいです。また（新型コロナウイルスの感染防止のため）学校では授業がリモートになったり、マスクのせいでお互いの表情が分かりにくくなっていることで、人と人がさらに疎遠になっている気がします。そのような中、思うような学生生活を送りづらいとは思いますが、学生時代にしかできないことがありますので、長崎外国語大学の学生の皆さんには、神さまがいつもそばにいてくださっていることを覚えて、有意義な学生生活を送ってほしいと思っています。どうぞ今後とも宜しく願いいたします。

（聞き手：学院宗教主任 こにしてつろう 小西哲郎）

夏のオープンキャンパスを開催しました

2022年度のオープンキャンパスは、7/17（日）、8/6（土）、8/20（土）の計3回の開催で161名と多くの高校生が参加してくれました。新型コロナウイルスの影響により、通常規模での開催は2019年以来3年ぶりとなりましたが、在学生の協力もあり無事に終了することができました。

各言語の体験授業では初めて学ぶ言語に触れ、フリータイムでは留学体験談、小論文対策や面接のコツなどの入試対策、入試・留学・就職の個別相談など、様々なコーナーで思い思いの時間を過ごし、会場は終始賑わっていました。高校3年生にとっては高校入学以来なかなか大学に足を運ぶチャンスがなかった中、直接キャンパスを見て大学を知り、教職員や学生と話げできたことは貴重な時間になったことと思います。

（文責：入試広報課 神原翔）



同窓会と保護者会より「通訳ボランティア育成セミナー」の補助金が支給されました

2021年9/8（水）～9/10（金）に「2021年度 第9回通訳ボランティア育成セミナー」が開催され、参加に伴う補助金として同窓会と保護者会から12名の学生に対し合計72,000円（1名あたり同窓会3,000円・保護者会3,000円）が支給されました。

「通訳ボランティア育成セミナー」は、全国7つの外国語大学が専門性を生かし、各種スポーツ・国際イベントでの学生の通訳ボランティアを育てることを目的としています。

（文責：総務課 松尾 博則）

本学学生が2022年第3回全日本大学生中国語コンテスト並びに第21回漢語橋世界大会中国語コンテスト日本予選決勝大会で優秀賞を受賞しました

2022年6月18日、早稲田大学で開催された「2022年第3回全日本大学生中国語コンテスト並びに第21回漢語橋世界大会中国語コンテスト日本予選決勝大会」で、国際コミュニケーション学科3年の中原真愛さんが優秀賞を受賞しました。「一

起向未来」(共に未来へ) というテーマのもと、高校時代の自身の体験をもとにスピーチしました。

この決勝大会に先駆けて、5月28日、オンラインで南日本ブロック予選が行われました。本学から応募した学生のうち、中原さんと国際コミュニケーション学科2年の迫千聖さんが、予備審査に通過し、中原さんは二等賞を獲得し、決勝大会へ進みました。

本学の学生達の努力を称え、今後さらなる飛躍を期待しています。

（文責：国際交流センター事務室 馬 賢鳴）



長崎北陽台高等学校生徒の皆さんと本学の外国人留学生が交流学習を行いました

6月24日、長崎県立長崎北陽台高等学校理数科3年生の皆さんと本学の外国人留学生が交流学習を行いました。今回はSDGs①「Sustainable cities and communities」を取り上げ、「ながさきは住みやすい街ですか？」をテーマに留学生の視点から見た長崎（日本）で生活する際に困っている点について意見を出し合い、最終的にSDGsの目標に照らし合わせて、問題点とその解決方法について議論しました。司会進行は高校生が行い、議論はすべて英語で行われました。真剣な意見交換を行いつつも、終始、和やかな雰囲気での交流が行われました。



長崎女子高等学校生徒の皆さんと本学の外国人留学生が交流学習を行いました



7月22日、長崎女子高等学校インターナショナルコース1年生8名の皆さんが本学学生と交流会を行いました。インターナショナルコースの生徒の皆さんは2年生になると韓国語を学ぶことから、本学の外国人留学生および韓国に留学経験のある日本人学生と交流しました。交流会ではグループに分かれ、いくつかの身近なテーマについてお互いの意見を出し合い、グループの意見をまとめ発表しました。終始和やかな雰囲気の中、様々な情報交換を通して互いに親睦を深めることができました。
(文責：入試広報課 前田紀子)

旅程管理研修について

本学院は、学校法人では初めて観光庁長官登録研修機関（第23号）として2006年12月に認可を受けた研修機関で、翌年4月より添乗員（ツアーコンダクター）として必要な「旅程管理主任者」資格が取得できる「旅程管理研修」を開講しています。

旅程管理主任者とは、旅行会社が企画した国内・海外の団体・パッケージ旅行などに同行し、ツアー出発から解散まで、旅行条件に基づいて安全且つ円滑に旅行ができるように管理する仕事です。

今年度は全3回の研修を予定し、3年ぶりに旅程管理研修（総合）修了者向けにタイ（バンコク）で4日間の海外添乗実務研修を実施しました。第3回研修は11月から12月にかけて基礎研修および指定研修を行ないます。第2回添乗実務研修は第1回と同様に国内は長崎県内（1月）、海外はアジア方面（2月）で実施予定です。

旅程管理研修の受講者・修了者報告（2007年度～2021年度）

	総合	総合 (国内免除)	国内	合計
受講者数	490	17	218	725
修了テスト受験者数	486	17	218	721
修了者数	423	14	203	640

お問合せ先

学校法人長崎学院 旅程管理研修機関事務局
TEL：(095) 840-2006 FAX：(095) 840-2206
E-MAIL：ryotei@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

(文責：旅程管理研修機関事務局 今村ひろみ)



(写真提供：旅程管理研修修了者 4年 植木比菜)

● 同窓会だより ●



同窓会名誉会長
吉田親生

長きに渡り、同窓会活動に尽力された吉田親生同窓会名誉会長が2022年（令和4年）8月5日に永眠されました。享年88歳でした。

吉田名誉会長は1944年の短大3回生卒で、1969年（昭和44年）2月10日に2代目会長となられ、40有余年同窓会会長や名誉会長を歴任されていました。

同窓会発足当初は資金がなく、当時副会長の梅枝様の話によると文房類等も買えず、会長のポケットマネーで買っていた事など、思い出話としてよく耳にしていました。

若い頃から青年会、商工会活動、国政の選挙運動に参加したり、知識を深めるために裁判所へも通われるなど知見を広められていました。これらの経験が現在の4年制大学の設立に大きな力となり、実現に至ったとよく話をされていました。これらの功績は永く伝えていきたいと思います。

この様にいろいろな分野でご活躍された先輩を亡くした事は、同窓会、大学にとっても大きな損失であります。今後は名誉会長の意志を引継ぎ、微力ながら役員一同同窓会の発展に尽力していきたいと思います。

最後になりますが、吉田親生名誉会長のご冥福をお祈りし、お別れの言葉といたします。

長崎外国語大学同窓会会長
岩田 耕作

卒業生で次号に載せてみたい方は、ご連絡下さい。 095-840-2010

● 保護者会だより ●

素晴らしい留学許可書授与式でした！！

初冬の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

世界的に流行している新型コロナウイルスが未だに完全に収束していないなかではありますが、留学ができるようになったことを大変喜ばしく感じています。学生の留学のために尽力いただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

それに先立ち、7月20日（水）に留学許可書授与式が開催されました。留学に行かれる学生達の決意を垣間見ることができ、とても感動いたしました。言葉や文化、気候風土も異なる海外で大変な苦労もあるかと思いますが、留学先で多くの友人をつくり、グローバルに幅広い人間関係を構築して、視野を広げ、たくましくなって帰国されることを願っています。

保護者会からもささやかではありますが、長崎外国語大学のロゴ入り4色ボールペン&シャープペンを寄贈させて頂きましたことをご報告いたします。コロナ禍において保護者会としましても、なかなか思うように活動ができない中ではありますが、少しでも学生のためにできることを考え、皆様からお預かりしている会費を運用させていただいております。今後とも、引き続き保護者会活動へのご協力をお願い申し上げます。



保護者会会長 山本 久美子

長崎外国語大学保護者会
会長 山本 久美子

教育研究の整備に関わる寄付事業のお礼と報告

平成27年4月から開始いたしました「教育研究の整備に関わる寄付事業」は令和4年9月末現在で922件、43,223,100円（内、令和4年4月1日～令和4年9月30日：59件3,138,380円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました同窓会、保護者会、取引先、在学生保護者を始めとした多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

皆様の温かいご支援にお応えすべく、教育環境の整備のために鋭意努力をして参る所存でございますので、今後とも本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 令和4年4月～令和4年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

個人の一部

(敬称略)

栗屋 曠	荻野 貴美子	小道 隆	原田 澄	平田 康子	南 加代子	吉田 雄之進
一宮 啓祥	川端 学	佐藤 辰巳	原野 浩二	前田 紀子	森脇 浩	
内園 美奈	川原 仁幸	道崎 満寿男	春海 賢一	前田 英輝	山下 信輔	
岡元 徹朗	黒田 雅美	唐原 こずえ	平下 美登里	松尾 博則	山本 哲哉	

法人の一部

株式会社 アイコック	有限会社 小田警備保障	長崎外国語大学ビジネス 株式会社	株式会社 西九州エレベーターサービス
石田コピーセンター株式会社	有限会社 九豊工業	株式会社 長崎消毒社	林兼石油 株式会社 長崎支店
株式会社 一広	株式会社 釘山工務店	長崎文化放送 株式会社	星野管工設備 株式会社
扇精光ソリューションズ株式会社	三和通信長崎 株式会社	長崎放送 株式会社	株式会社 松田久花園
有限会社 大谷書店	株式会社 松栄設備	一般財団法人 長崎YMCA	

新長崎学研究に関わる寄付事業のお礼と報告

平成28年4月から開始いたしました「新長崎学研究に関わる寄付事業」は令和4年9月末現在で294件、13,272,240円（内、令和4年4月1日～令和4年9月30日：31件、474,400円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

今後ともグローバル人材の育成という本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 令和4年4月～令和4年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

個人の一部

(敬称略)

栗屋 曠	岸川 善彦	道崎 満寿男	中島 淳・順子	前田 裕一郎
岩田 耕作	佐藤 辰巳	朝永 洋子	春海 賢一	山下 信輔

法人の一部

株式会社 アイコック	株式会社 稲崎産業	一般財団法人 長崎YMCA
アダチ産業 株式会社	株式会社 サープネット	株式会社 ほんだコーポレーション
石田コピーセンター 株式会社	株式会社 チョープロ	松尾建設 株式会社

寄付に係る税金（所得税・住民税）の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

個人 寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。【(注):寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

寄付をされた翌年1月1日現在、長崎県内の市町村の住民税課税対象となっている方は住民税についても寄付金控除が適用されます。

※上記以外の自治体の住民税課税対象となっている方は各自自治体のホームページでご確認くださいか、直接自治体へお問い合わせください。

法人 受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。【事前の手続きが必要です。ご説明をいたしますので寄付の際は大学にお申し出ください。】

ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。
法人事務局よりご説明および必要書類をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課 (担当: 森脇・前田)
Tel 095-840-2003 (法人財務課直通) Email keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



浴衣デー

7月7日（木）、浴衣DAYが開催されました。

留学生を含む、多くの学生が浴衣や甚平を着て、学友会メンバーが企画したイベントや花火を楽しみました。

日本人学生と留学生が、日本の文化を体感しながら交流できる楽しい夏のイベントとなりました。

（文責：学生支援課 濱田利奈）